

読書好きを育む環境づくり 応援研修会

本研修会は、子どもの読書習慣定着のために、乳幼児に対する有効な手段を学ぶとともに、読書好きな子どもが育まれる環境づくりの取組について交流し合い、子どもが読書好きになるための具体的な方法を考え、管内関係者のネットワークの構築を図るために企画しました。管内の公立図書館、読書ボランティア、幼稚園・保育園・学校関係者など45名の参加者が一緒に学びを深めました。

研修 <講話・グループ交流>

みんなで見つけよう！「絵本と出会うまでのストーリー」

からすのほんや 主宰 芳野 仁子 氏

講話では、芳野氏から、乳幼児に読書習慣を定着させるための工夫について、次の3つの視点からお話いただきました。

まず、読み聞かせの工夫について、「膝の上での読み聞かせ」や「遊びながらの読み聞かせ」など乳幼児にとって、読み聞かせの時間が保護者との楽しいコミュニケーションの時間となる工夫をすること。

また、選書の工夫について、「この年齢でこの絵本が適している」ということは気にし過ぎず、子どもが読みたい絵本や子どもがお気に入りの絵本を繰り返し読んでよいこと。

さらに、啓発方法の工夫について、読み聞かせ（ブックスタートやお話し会など）の時に子どもが喜んでいる姿を保護者に見てもらい、家庭での読み聞かせにつなげることが大切というものでした。また、家庭に限らず、図書館や保育園・幼稚園など、いつでも子どもの手の届くところに絵本がある環境を作ることが大切とおっしゃっていました。

グループ交流では、子どもが読書好きになるためのアプローチの方法について交流が行われました。「公共図書館で乳幼児期の子どもが絵本と出会うためにはどうしたらよいか」、「小学校低学年の子どもが本好きになるには」など、各グループで決めたテーマに沿って、活発に議論していました。職種の異なる方々の多角的な視点をもとに交流することで、「これまでの概念にとらわれず、図書館の内外で楽しめる取組はどんなものがあるだろうか」、「保護者だけでなく、兄弟など子ども同士が関わる取組はどうだろうか」など新たな気づきを得ることができました。さらに、参加者同士の横のつながりや関係機関との連携の重要性を感じるきっかけにもなりました。

参加者は本研修会を通じて、乳幼児に読書習慣を定着させるための工夫について学ぶとともに、子どもが読書好きになるためのアプローチの方法について理解を深めることができました。さらに、各グループで決めたテーマについて交流することで、管内関係者のネットワーク構築を図ることができました。



【参加者アンケート】（抜粋）

- ・読み聞かせの際、子どもの表情や感じたことなどを保護者に伝え、家でのふれ合いにつなげていく。
- ・子どもだけでなく、保護者も楽しいと感じる読書環境づくりを日々意識できるようにしたい。
- ・職種の異なる方々と交流したことで自分では考えつけないアイデアを知ることができた。
- ・他市町村の読書関係者の話を聞いて、参考になった。また、学校や保育園等とさらに連携が必要と感じた。